

おわりに

昨年、春大学を卒業し、現在、幼稚園に勤務している教え子が、小学校時代の「総合」を振り返って、次のように語ってくれました。「私にとって総合の時間は、楽しみな時間でした。他の時間とは違って、答えのない課題に向かって自分たちで追究していくというのは、大変でしたが、楽しかったです。大学でスキー部に入ったとき、高校のときとは違い、細かく練習の仕方を教えてもらえませんでした。周りのみんなはそのことに戸惑っていましたが、私は与えられた練習をそのままやるよりも、自分で考えて練習する方が楽しかったです。今から思うとそれは、小学校のときの『総合』の学習が生きていたのだと思います。今、幼稚園の先生をしています。一人一人の子どもに合った接し方をしたり、先輩の先生の子どもへの接し方を見て自分ができそうなことを取り入れたりしているのも、『総合』で学んだことだと思います。」

話を聞いていて、職場で大好きな子どもたちと生き生きと活動する姿が目に見えんできました。彼女は、社会の中で自らの位置を確立し、自己を創造し続けているのです。10年経った今、小学校時代の学びが大きく開花したことに喜びを覚えるとともに、主体的に学ぶことの意義を改めて感じました。

前文部科学省教科調査官の井上一郎氏の著書『教師のプライド』に次のような一節があります。「教育は、新しい時代の子どもを創り出す仕事である。しかも、将来子どもたちが社会の中核となって活躍する何十年後かに役立つものを提供するのである。教育は未来からやってくる。だから教師は、子どもたちに未来への贈り物をしなければならない。」（『教師のプライド』東洋館出版社 2009.8）

いま、目の前にいる子どもたちが、10年後、20年後に社会で生き生きと活動する姿を思い描き、これからも研究を進めていきたいと思います。

○本冊子で紹介した実践研究の主な内容は、以下の報告書に掲載しています。

京都市総合教育センター 研究紀要

報告 No.554 主体的な学びを支える総合的な学習の時間における言語能力の育成

—探究的な学習を実現する言語活動の構想—

報告 No.561 探究的な学習を充実させる総合的な学習の時間の単元展開

—学年の系統に応じた内容と言語活動の充実—

進藤 弓枝 （京都市総合教育センター研究課）

※京都市総合教育センター研究課が作成した『総合的な学習の時間における言語活動の手引き』をあわせて御活用ください。

なお、『総合的な学習の時間における言語活動の手引き』は、「京都市総合教育センター研究課」のweb サイトにも掲載されています。

<http://www.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/kenkyu/outlines>

○イラストは、出町書房のものを許可を得て使用しています。

京都発！確かな教育実践のために 21

探究的な学習を充実させる総合的な学習の時間の単元展開

—学年の系統化及び言語活動の充実を図って—

発行 平成 25 年 4 月

発行元 京都市総合教育センターカリキュラム開発支援センター

〒600-8023 京都市下京区河原町通松原上る 2 丁目富永町 344

TEL 075-371-2341 FAX 075-353-4851

